

## I <投稿>

『部落解放1月増刊号「部落解放・人権入門2023～第53回部落解放・人権夏期講座報告書」』掲載されている講演会記録から、二つを紹介します。一つは、出口真紀子さん(上智大学外国語学部外国語学科)の『マジョリティの特権とマイクロアグレッション』という講演記録です。見出しを紹介します。「マジョリティの特権」とは①もっている人は気づきにくい特権、②特権と差別は表裏一体、③特権という概念との出会い、④自分もつ特権に向きあう、⑤特権に気づくためのアクティビティ、⑥「立場理論」で理解する、⑦複合的な視点でこそみえる差別、⑧マジョリティとマイノリティの関係性、「マイクロアグレッションを考える」では、①マイクロアグレッションとは、②マイクロアグレッションの有害性、③差別に対して中立的立場は存在しない、④マジョリティを教育する責任、という構成になっています。興味を引く内容です。

特権という概念について、「私は『人種差別は他人を不利な立場にする』ということは教えられてきたが、その裏返しである自分を有利な立場にするということについては教わらなかった」ペギー・マッキントッシュさん(米国マサチューセッツ州、ウェルズリー大学の女性研究所研究員)ということばは、心に刺さりました。

もう一つは、赤井隆史さん(部落解放同盟大阪府連合会執行委委員長)の『水平社100年とこれからの部落解放運動』の講演の「『21世紀は人権の世紀』といわれて久しいのですが、最近では『21世紀は人権の分水嶺の世紀』と捉える方が正しいのではないかと考えております」という一節は、重たいことばでした。

大会記録は、他に『メディアからみた部落問題の現状-全国水平社100年-』(山口新太郎さん・西田昌矢さん～西日本新聞社「人権新時代」取材班)、『ビジネスと人権-実効性のある取り組みに向けて-』(佐藤暁子さん～国連開発計画(UNDP)ビジネスと人権リエゾンオフィサー/弁護士)の講演を掲載しています。(M)

## II <お知らせ>

### (1) 第8回啓発部会

日時：3月25日(土)14:00～

場所：田川市民会館

内容：マジョリティの特権とマイクロアグレッションについて

### (2) 「第31回三・一文化祭」(「三・一文化祭実行委員会主催」)開催

多文化交流マダン(広場)三・一文化祭が4年ぶりに開催されます。会場は福岡市立香椎浜小学校です。お間違えのないようにお出かけください。

日時：3月26日(日) 11時開場 12時～16時

場所：福岡市立香椎浜小学校 体育館

内容：楽器体験ワークショップ、民俗あそび体験(ボナ・皿回し)、ソゴチュム(小鼓舞)など

\*「食文化コーナー」はありません。

\*詳細は研究所フェイスブック参照

問合せ：事務局長 朴康秀（パク・カンス）さん TEL/FAX 092-571-1131

Eメール [festa191931@yahoo.co.jp](mailto:festa191931@yahoo.co.jp)

(3)2023 年度 公益社団法人福岡県人権研究所 定時会員総会

日時：5月28日(日)13:30～

場所：(公財)福岡県人権啓発情報センター（ヒューマンアルカディア）視聴覚研修室  
(春日市原町3丁目1-7 JR春日駅前)

< \* 研究所主催の各部会・講座の開催等の詳細については、ホームページをご覧ください。 >

☆ホームページ

<https://www.f-jinken.com>

〔人権研究所の出版物〕

新谷恭明『校則なんて大嫌い！ー学校文化史のおきみやげー』

久米祐子『子どもから障害児を「分けない教育」の戦後史インクルーシブ教育とはー』

木村政伸『教室の灯は希望の灯 自主夜間中学「福岡・よみかき教室」の二五年 』

関 儀久『感染症と部落問題 近代都市のコレラ体験』

森山沾一・和智俊幸・横田司・坂田美穂『殉義の星と輝かん～百年生きる「解放歌」と柴田啓蔵』

部落史研究部会/史・資料プロジェクト『2020/2021 史・資料プロジェクト報告集「身分」を考える』

木村かよ子「ポストカード」5種5枚セット500円

☆お求めは

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/>

☆ニュースのバックナンバーは下記研究所公式サイトでご覧いただけます。

<http://www.f-jinken.com/news/iberacion.html>

◇みなさんの投稿お待ちしております。

ニュース担当：峰

[info@f-jinken.com](mailto:info@f-jinken.com) (登録解除はこちらから)

【公益社団法人福岡県人権研究所は、会員の会費で運営されています。】